

令和元年度 新栄地域ケアプラザPDCAシート\_公表用（事業計画書、事業報告書、事業実績評価）

—総括表—

◆ 事業計画

地域の現状と今後の方向性

新栄地域ケアプラザのエリアは、連合町内会ごとに、「かちだ地区」「新栄早渕地区」「勝田茅ヶ崎地区」「茅ヶ崎南MGCRS地区」であり、それぞれに特徴がありますが、おおよそ、センター南駅を中心とした新しく開発された地域や、早渕の新興住宅エリアは、15歳未満の年少人口が高い水準を維持しています。一方、「かちだ地区」は65歳以上の割合が約56%であり、平均年齢が59歳となっています。一人暮らし高齢者が400人以上居住し、孤独死などの課題も顕在化しています。さらに、「新栄早渕地区」は高齢者専用の大型住宅もあり、ケアプラザエリア内の高齢者割合を上げる要因となっています。

昨年度より、市営かちだ団地を対象に始めました買い物ボランティア「お互いさま会」の支援や「LSA事業(生活支援)」の本格稼働に向けた取り組みを推進し、「地域包括ケアシステム」の強化を目指します。

今年度の重点的な取組

新規  
継続

—具体的な取組内容—

- チーム新栄として、部門の垣根を越えた協力・連携体制の構築を目指し、LSA職員の6職種会議への参加を始め、会議の持ち方や日常的な情報共有の方法を工夫し、円滑なコミュニケーションを図り、互いに支えあえる組織となって事業に取り組みます。
- 第3期地域福祉保健計画の振り返り、第4期計画策定を踏まえた、地域懇談会・支えあい連絡会を各地区で開催をします。地域福祉保健計画を各会合等、地域広報紙、館内等で周知し、地域の方々に「我が事」ととらえていただきます。
- 地域の会合（自治会・町内会、民生委員児童委員連絡協議会、地区社会福祉協議会、老人会、おもいやりネットワーク、支えあい連絡会）等に参加し、地域課題を明確にします。6職種で地域支援検討の場を設け、共通認識を持って事業展開を行います。
- 障害者向けのサロンを開催し、障害の種別に関わらず気軽に集い、交流を広げ、相互理解を育めるような集まりの場を提供します。また、関係機関の横の繋がりの強化を目指します。
- 地域ケア会議を通して地域での見守り体制づくりを推進してまいります。

◆ 事業報告・事業実績評価

振り返り

平成31年1月からのLSA事業の開始に続き、4月からは複数名の職員の交代があり、新たな新栄地域ケアプラザとしてスタートを切った一年となりましたが、従来からの職員の尽力もあり、地域関係者の皆様とも円滑に顔の見える関係づくりが行えました。また、職員が交代した機会を活かし、これまで足を運ばなかった地域行事や団体等へも積極的に足を運び、新たな関係構築につながりました。また、所内においては、横浜市の新様式であるPDCAシートの作成や法人独自のアセスメントシートを用いて行う「CP地域支援会議」を通して、地区ごとの特性について理解を深めるなかで、6職種間の共通認識が図られ、協働の意識が高まりました。

区からのコメント